中部地方整備局事業評価監視委員会（平成 24 年度第 2 回）

議　事　概　要

１．日　時　　平成２４年１０月１２日（金）１０：００～１１：３０

２．場　所　　ＫＫＲホテル名古屋　３階芙蓉の間

３．出席者

○事業評価監視委員

林委員長、大野委員、葛葉委員、樹神委員、雑賀委員、中村委員

○中部地方整備局

梅山局長、山根副局長、渡辺副局長、総務部長、企画部長、河川部長
営繕部長、用地部長、建設産業調整官、道路調査官

４．議事

１）対象事業の審議等

（再評価）

一般国道 474 号　三遠南信自動車道　飯喬道路
一般国道 474 号　三遠南信自動車道　青崩峠道路
一般国道 474 号　三遠南信自動車道　佐久間道路・三遠道路
矢作川総合水系環境整備事業
豊川総合水系環境整備事業

５．配布資料

・委員会開催資料（議事次第、配付資料一覧、委員出席者名簿、配席図）
・資料１　　再評価に係る県知事等意見
・資料２　　対応方針一覧表
・資料３　　再評価に係る資料【道路関係】
・資料４　　再評価に係る資料【河川関係】
・資料５　　一般国道 474 号　三遠南信自動車道　説明資料
　　（飯喬道路、青崩峠道路、佐久間道路・三遠道路）
・資料５－１　一般国道 474 号三遠南信自動車道　飯喬道路　説明資料
・資料５－２　一般国道 474 号三遠南信自動車道　青崩峠道路　説明資料
・資料５－３　一般国道 474 号三遠南信自動車道　佐久間道路・三遠道路　説明資料
・資料６　　矢作川総合水系環境整備事業　説明資料
・資料７　　豊川総合水系環境整備事業　　説明資料

６．主な審議結果等

１）再評価対応方針（原案）については以下のとおりとする。

【道路事業】

一般国道 474 号三遠南信自動車道　飯喬道路　・・・・・・了承

一般国道 474 号三遠南信自動車道　青崩峠道路　・・・・・・了承

一般国道 474 号三遠南信自動車道　佐久間道路・三遠道路　・・了承

【河川事業】

矢作川総合水系環境整備事業　・・・・・・了承

豊川総合水系環境整備事業　・・・・・・了承

２）委員より出された意見・質問及びその回答

項　　目	意見・質問	回答及び対応方針
一般国道 474 号 三遠南信自動車道 （飯喬道路） （青崩峠道路） （佐久間道路・三遠道路）	三遠南信自動車道周辺地域の人口の変遷について、説明されたい。	昭和 60 年から、平成 27 年ごろまでは増加傾向になるが、それ以降は減少傾向の予測になっている。
	三遠南信地域の絶対的な人口はどれぐらいなのか。	三遠南信地域は、塩尻から下、南信州地域、遠州地域、奥三河地域で仕切っており、その範囲で 156 万人である。
	この道の事業化が決められた前との比較は可能か。	3 地域全体で平成 12 年度で 155 万人、平成 22 年度で 156 万人ですから 1 万人ぐらい増えている。 各地域で見ると、都市部の遠州地域で増えており、飯田方面の中山間地域は 0.8 や 0.74 と若干減っている。
	かつて国幹道のルートを選ぶ基準として、すべての市町村役場から 60 分以内にインターチェンジに到達することが一つの条件となっているが、この 60 分はどこからきているのか。	高規格幹線道路 1 万 4000km を決めるときに、全市町村から高速インターアクセスまでが 60 分以内ということで、1 万 4000km の構想を立てており、それに基づいている。
		今の時代ですと時間を短くする議論はあるかもしれませんが、そういった議論は今のところされていない。よって基本的に 60 分という単位を一つの指標としているところである。

	資料５　11ページの「搬送」の言葉の定義を説明されたい。 119 番に電話があって家から病院を探し、病院にお連れすることを「搬送」という理解でよいか。 病院から病院ではなくて、家から病院という意味両方を含んでいるのでしょうか。	両方含んでいる。
	事故現場や家から病院に運ぶことを搬送というと思うが、資料５　11ページ右側の時間短縮の評価の図では、二次救急医療施設から三次救急医療施設に運ぶ時間が減る話で評価されています。これが家からという話ではないのはなぜなのか。	資料５　11ページ右側の表については、こういった例の搬送回数を出しているということである。
	家もしくは事故現場から最終的に受け入れる病院までの時間も、道路のおかげできっちり短縮されていることを確認したかった。	一番左に救急出動回数ということで、平成22年度391回というものがある。この中の内訳のデーターは今手元にはありませんが、持っていますので、今ご指摘いただいたようなものは、この391回を分ければ出てくる。 後日以下のとおり修正を委員に確認の上、実施。 （修正内容） 391 回は一般の方から消防に依頼があって、現場へ到着し病院へ収容する件数だけのもの。

一般的意見）

○現在の評価方法だと、大都市で車がいっぱい走っていないと駄目みたいなことになっているが、車が走ることと幸せかどうかというのは全然違う。例えば、これからの高齢化社会において、高齢者の人がどういう生活ができるかという評価を「クオリティー・オブ・ライフ・アプローチ」として道路ができることにより、医療や健康がどのくらい増進されるか、災害のときにリダンダンシーが確保できるかといったことを量的に測り、時間短縮による GDP 増加とどちらが上かということをやらなければならない。

○評価の視点が非常に多様であり、それぞれ性格が違う。評価の物差しとしては、災害に強い、救急医療又は地域活性化という性質あるいは目標の違うものが入っている。したがって、性格の違う評価の視点（事業の目標）の中で、総合評価することが、今後の課題となる。

○ある一部区間が完成した時に、ネットワーク効果により、病院や買い物だったりがどれくらいプラスになるかという、アクセシビリティの変化を表示するように変更してもいいのではないか。国交省全体として、オーソライズすることをやっていただきたい。

項　　目	意見・質問	回答及び対応方針
矢作川総合水系環境整備事業 豊川総合水系環境整備事業	自然再生計画勉強会は、どのような組織か。 また、そこではどのようなことが議論され、例えば河口部の自然再生事業を進める上で問題点が指摘されていないのか。	矢作川の現状や変遷、課題、あるいはどのように整備していくかについて、様々な分野の委員から意見を頂き、計画に反映することを目的として事務所で設置している。平成21年1月に設置しており、年2回開催している。 植えたヨシ等が非常によく活着しており、新たに貴重な植物なども確認され効果を発現しているという意見をいただいている。
	河川整備は自然を相手にしているので、状況は刻々と変わっていく。整備した後にどう変化したかきめ細かに調査しないと、この整備が何年間くらいの効果を持つのかといった本当の意味での事業の効果は評価できないと思われる。	ヨシ原や干潟を再生した所などのモニタリングを実施している。今後も長期間にわたってモニタリングしながら、効果がなるべく長く発現していけるよう管理していきたい。 また、河川巡視・監視による日々の管理の中で川の変状を継続的に監視していく。
	今の時代、モニタリングなどの予算は無駄ということで、削減されることはないのか。	河川は環境だけではなくて、治水の面からも、地域の安全・安心の面からも引き続いて継続的に監視しなければならないと考えている。
	疫学関係のアンケートでは7割の回収率がないと、信用できる数字ではないと言われている。 今回のＣＶＭの場合、2割の回収率だが、十分な数字なのか。 世帯数8万の箇所で、配布数の3,000はどのように決めたのか。	配布数は、手引きに従って有効回答数300を確保するため、回収率が15％程度、そのうち有効回答率を60％を想定し算出した。
	アンケート調査において、その地域を代表しているかは回収率では分からない。 回答可能な人の層別のデータはどうなっているのか。	Ｗｅｂによる調査では若い世代の回収率が多くなるため、追加で郵送配布を行い、世帯数的に年代別のバランスがとれるように補正した。 豊川を例にすると、20代8.1％、30代16.7％、40代17.1％、50代17.2％、60代21.2％、70代以上19.7％となり、年代別の隔たりはおおむね解消された。

	両事業とも事業着手から約 10 年だが、豊川では 28%、矢作川自然再生は 21%の進捗率となっている。 自然環境の保全・創生のため、定着を考えてわざとゆっくり進められているのか。	河川の状況を見ながら事業を進めている。 流域の河床掘削工事で発生した土砂を用いることにより、コスト縮減を図りながら進めている。
	どのような場合に事後評価に準ずるフォローアップをされているのか。また、フォローアップと事後評価はどう違うのか。	事後評価というのは、その水系の全ての整備箇所が終わった際に、全体を評価するものである。 フォローアップは、個々の整備箇所が完了した時点で、一度個々の評価を行うものである。 事業全体をまとめて最後に事後評価を行うため、個々の事業については何回もやらないという案とさせていただいている。
	矢作川の 23 ページで今後の事後評価は必要ないと考える結果はどういう意味か。	
	「あらためてフォローアップする必要はないと考える」ということは、事後評価まで同じことはしないことか。	
	事後評価は何年後にあるのか。	事業の進捗状況もあり、明確に言えない。
	河川は、洪水で事業した場所が流されることもあるし、長い間効果が持続しないと思いますがどう対応するのか。	日常的に河川巡視を実施し、今後も変状を確認していく。今のところは、大きな洪水があっても変化は確認されていない。 また、水辺の国勢調査を含めて、利用実態や生物調査を実施するとともに、日々の管理の中でしっかりと対応していく。

一般的意見）
○ＣＶＭアンケートにおいて、回収率の低さは、信頼性の問題があると指摘されている。
しかしながら、どの程度の回収率があれば大丈夫だという基準は今のところない。
郵送配布・回収の場合、回収率 30%が妥当な数字だと思う。